

設備工事情報シート	電 気	I - E - 7 - 改 <sub>3</sub>	制 定	2006年4月1日
			改 訂	2018年11月13日
施工要領	ケーブルの防火区画貫通部の処理 (プチロク)		古河テクノマテリアル編	

### 1. 目的・概要

ケーブル・配管等が防火区画の壁・床を貫通する部分には、定められた耐火性能をもった防火措置を行うことが義務付けられている。これらの防火措置工法は、メーカーや工法毎に施工上のポイントが異なる。

以下に、(株)古河テクノマテリアルのケーブル防火区画貫通措置工法（プチロク）を紹介する。

### 2. 製品（プチロク）の特徴

#### (1) 簡易施工

2分割型樹脂スリーブの内側に熱膨張材を組み合わせてあり、開口部に納め、残った隙間を耐熱シール材で埋めるだけで施工完了。

#### (2) 容易な再通線

プチロクを開口部に納めたまま、耐熱シール材をはぎ取り、ケーブル・配管等の再通線が可能。再通線作業の終わりに、耐熱シール材で隙間を埋めて施工完了。

#### (3) 広い適用構造範囲

RC造をはじめとして、ALC造や石膏ボード壁にも適用できる。中空壁では両側施工となるが、通常の壁では片側施工で問題なし。

#### (4) 環境に優しい

ハロゲンフリー材料で構成されているため、火災時にハロゲン系ガスやダイオキシンなどの有害物質を発生しない。

#### (5) 耐火性能

国土交通大臣認定を取得。

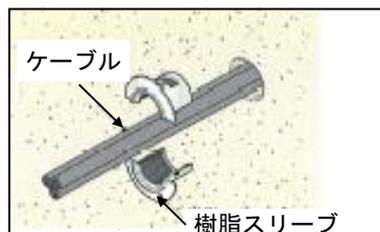
### 3. 施工手順およびポイント

#### (1) 施工前確認

貫通するケーブル類が適正な範囲内にあるか確認。

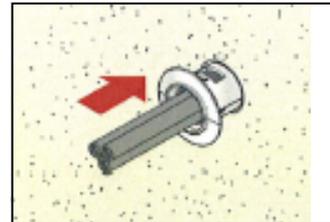
#### (2) 樹脂スリーブの取り付け

ケーブルを挟んで樹脂スリーブをはめ合わせる。



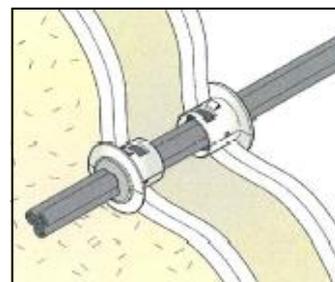
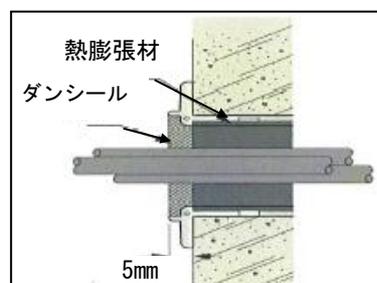
#### (3) 開口部への設置

はめ合わせたスリーブを開口部へ挿入



#### (4) 耐熱シール材の充填

ケーブルと樹脂スリーブの断熱シール材（ダンシール-P）を厚さ5mm以上充填し、隙間の無いことを確認して施工終了。



※中空壁の場合：  
ボード壁の両側に設置

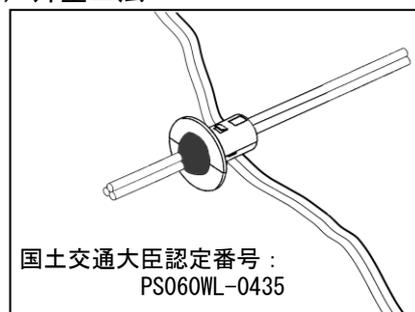
# 資 料

## 4. 工法別施工断面図

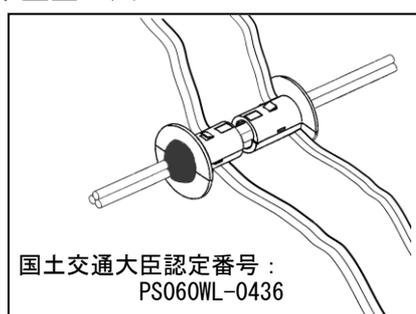
### (1) 一般壁工法



### (2) 片壁工法



### (3) 中空壁工法



PS060WL-0436(両側施工)により、一般壁においても合成樹脂製可とう電線管の布設が可能

## 5. 認定条件

部位	種類・認定番号等	認定条件
壁貫通部	ケーブル貫通部 一般壁 大臣認定番号：PS060WL-0435	①最大開口寸法：φ50mm ②最大適用可能ケーブルサイズ：38mm <sup>2</sup> （導体サイズ） ③通線本数：導通本数は、導体断面積が38mm <sup>2</sup> 以下であるケーブルにおいて製品の開口に導通可能な本数までとする。 ④壁の構造：鉄筋コンクリート・ALC壁 厚さ70mm以上 ⑤施工方法：片側施工
	ケーブル貫通部 片壁 大臣認定番号：PS060WL-0435	①最大開口寸法：φ50mm ②最大適用可能ケーブルサイズ：38mm <sup>2</sup> （導体サイズ） ③通線本数：導通本数は、導体断面積が38mm <sup>2</sup> 以下であるケーブルにおいて製品の開口に導通可能な本数までとする。 ④適用壁厚：厚さ42mm以上 ⑤施工方法：片側施工
	ケーブル貫通部 中空壁および一般壁の両側施工 大臣認定番号：PS060WL-0436	①最大開口寸法：φ50mm ②最大適用可能ケーブルサイズ：38mm <sup>2</sup> （導体サイズ） ③通線本数：導通本数は、導体断面積が38mm <sup>2</sup> 以下であるケーブルにおいて製品の開口に導通可能な本数までとする。 ④合成樹脂製可とう電線管：呼び径28以下（ケーブルとの混在不可） ⑤適用壁厚：厚さ80mm以上

## 6. 問い合わせ先

(株)古河テクノマテリアル

部 署	TEL	FAX	URL
本社 防災事業部	0463-24-9341	0463-24-9346	<a href="http://www.furukawa-ftm.com/bousai/">http://www.furukawa-ftm.com/bousai/</a>

**日建連**

注：この情報シートは日建連の基準、規格ではありません